

# 町なみ飛騨高山

2号



## 季節の便り

「鳩峰車組（きゆうほうしやぐみ）町並保存会では、重要伝統的建造物群保存地区として選定された平成16年から、各軒先に風鈴をつるす年中行事を行っています。風鈴は統一されたものではなく、それぞれのお宅で材質や音色にこだわりがあり、デザインが一樣でないのがいいところ」と話すのは、鳩峰車組保存会長の倉田氏。



本格的な夏の到来を控えた毎年8月1日から、秋の涼しさを感じる8月31日の期間限定で、訪れる人々に風鈴の音色で少しでも涼しさを感じてもらおうと、各家の軒下に風鈴がつるされます。

皆様からの「地域や町並み」に関する身近なニュースや、ご意見、ご要望など、各保存会 会長様 までお寄せください

高山市では、通常より一ヶ月遅く七夕祭りが行われます。寒くて雪深い地方の節句は、季節感にあわせて旧暦で行われる例が多く見られます。笹飾りのアーチによって普段より華やかな古い町並みにカメラを向ける観光客の方の姿が見られました。



今年も8月5・6・7日の三日間、上三之町・恵比須台組両保存会で七夕笹飾りが行われました。30年以上続いている行事です。早朝、大雨の中を会員有志が竹を取りに行き、各家で短冊など、手作りの飾り付けをしました。古い町並みの夏の風物詩として、これからもずっと続いていくことを願っています。恵比須台組町並保存会員（えびすたいぐみ）久田氏

お寄せいただきましたご意見などは、編集して本誌等でご紹介させていただきます

## 多発する火災に非常事態宣言 連日連夜の警鐘

今年の上半期は火災が多発しました。消防本部の発表によると、5月20日の非常事態宣言発令までに23件。前年中の28件、前々年中の25件と比較するとその多さが分ります。翌月7日に非常事態宣言の終息が決定するまでの間は、連日連夜、消防署や地元消防団・各町内会が注意を呼び掛けたり見廻りをするなど物々しい日が続きました。

### 町並み保存と防災

昔ながらの町並みを残しながら暮らし続けるということは、短絡的な物言いをすると、火災に対してあえて脆弱な環境であり続けることとはならないでしょうか？

高山は、古くから飛騨地方の商業の中心として栄えた小都市です。

その魅力の象徴でもある古い町家（まちや）が連続して建ち並ぶエリアは、「高山市三町（さんまち）伝統的建造物群保存地区」・「高山市下二之町（しもにのまち）大新町（おおじんまち）伝統的建造物群保存地区」として国の文化財選定を受けています。

### 町家構造の弱点

町家とは、町人が業（なりわい）を営むための店舗・住居一体型の伝統的な構法で建築された建物のことです。通りに面した間口2.5～3軒（4～5m）をみせと呼び、それに続いて部屋が並ぶように奥まで続きます。

それらの多くは江戸後期～明治中期に建てられた木造の建物で隣接しているため、火災が発生した場合は延焼の危険性が高く、袋小路が多い町家の造りでは避難が困難です。通りが狭くて消防車などの緊急車両が進入し難いのも、この地区の特徴です。雪の多いこの地では、消火用の水の確保も重要です。最近では空き家や、店舗として利用されるため昼間しか人が居ない建物が増えました。したがって火災発生を早期に感知することや、初期消火が困難で、火災が拡大する可能性が高いのです。

文化財保護法が改正された一九七〇年代より、この地区でも文化財の保護と木造建築物火災の危険性の改善のため、

## さらなる防災計画

様々な防災事業が行われてきました。

そんな中、防災計画の策定に拍車がかかったのは、平成8年4月の真夜中に地区内で発生した7棟が焼失する大規模火災がきっかけでした。

この火災では、地区の夜回り当番による早期発見・地域に設置された消防ポンプなどを活用した地域住民による初期消火や救助活動・町家の特徴でもある敷地の奥にズラリと並んだ土蔵（どぞう）の防火帯（ぼうかたい）機能：これらが相乗的に効果を発揮し、更なる延焼を防いだと言われています。

このときの経験を基に「早期発見と初期消火」の重要性を再認識し、地区の定期的な訓練・隣接する数軒で自動火災感知器を共有するグループ・自火報システムの構築・防災設備の定期点検が進められています。

市内各所に、火伏せ（ひぶせ）の神である**秋葉神社**（あきばじんじや）が祀られています。

高山では、古くから火災に対する注意・防災に関する知識・自分達の命や暮らしを守る取り組みが、町並みと共に生きています。



町家の構造と、防火帯としての蔵



今年3月に市景観町並保存連合会が設置した3つの専門部会の一つ「子ども伝承部会」の初事業として、**8月3日にご朱印めぐり**（主催／当部会・後援／高山市）が開催されました。

景観町並保存に関わりがある各所を、スタンプをもらいながら観て巡る催しです。

「子ども達に景観町並保存の大切さを知ってもらおう」と、部会員たちは話し合いを重ね、知恵を出し合い作業を

分担し、高山市職員さんの協力を得てその日を迎えました。今回は、西・北・山王小学校を対象に50名を募集しましたが、集まってくれたのは14名。期待よりいささか少人数ではありましたが、熱心で元気いっぱいの子どもたちに我々大人たちはタジタジ。初めての事業としては相応であったと思います。



写真入りのご朱印帳を手に仲良く記念撮影！



来年度に向けたたくさんの課題が残りましたが、まずまずの成果でした。

**子ども伝承部会長 宮川氏**

手探り状態の御朱印めぐりが無事終了しました。参加してくれた子ども達は、とても興味深げで楽しそうに見受けられました。普段はあまり立ち寄る事のない場所です。講師の方々から高山の歴史についてもお話が聞けたことは、とても良い経験だったのでないでしょうか。



講師から左京屋敷の話聞く子どもたち

今回の下町を皮切りに、地域を変えるなどしてこれからも続けていけたらと思います。

また、高山の伝統文化を子ども達に伝承していく為の事業を、様々な切り口で企画したいと考えています。

**子ども伝承部会員 瓜田氏**

**ご協力者の声**

子ども伝承部会から、私が所属する「八幡町飾り物同好会」に、事業への協力要請がありました。はたして小学生に飾り物（※）を理解してもらえるか心配でしたが、平成22年の「飾り物展」に

出品した「光」を題材にしたものと、他数点をお見せしました。



↑写真の作品には、**はた織り器具**を使用しました。縦糸をそろえて保持するための**箄（おき）**をレール、横糸を縦糸の間に**通す杼（ひ）**を**新幹線ひかり号**に見立てたものです。

「はた織り機は知っているけど、細かい道具までは知らない」ということでしたので、説明して差し上げました。



飾り物について説明を受ける子ども達

次号は12月上旬発行予定

各部会の活動報告・ミニ知識コーナー・保存会の紹介：：など

天明の時代（18世紀末）から続く「飾り物奉納」という高山独自の文化を守り続けようとする活動があることについて、知っていただくことが出来ました。

八幡町景観保存会 古滝氏

※飾り物（かざりもの）  
かつては町家の表格子を外して幕を張り屏風を背に、町内各組が競い合って披露したトンチとユーモア溢れる大人の遊び。大工道具や酒器などの道具や日用品を加工や細工しないで使うのがルール。

①良かったこと  
楽しかったこと  
▼友だちと話しながら歩いたりグループ行動できたこと。▼スタンプを押しながら、探検するように高山の良いところや昔の事を知ることができたこと。

②印象に残った場所  
▼秋葉様▼屋台蔵/初めて入った。▼高山別院/大きさに驚いた。▼高桑家/17もある部屋・大きな蔵・小さな蔵・漬物用の蔵・斜めの柱。▼日下部家/係のおじさんが詳しく話してくれて分かりやすかった。昔の花嫁衣装とカンザシが印象的。

④次回への要望  
▼引率してくれる大人を増やして欲しい。▼ゴールする順位によって賞品があると良い。▼暑かったので、飲み物が欲しかった。▼来年も参加したいし、もっと詳しく観たい。

③全体的な感想  
▼ゆっくり観て廻りたかった。▼歩く距離をもう少し短くして欲しい。▼有料の施設に無料で入れてもらえたので良かった。▼「祟り石」の場所を探すのが面白かった。▼知らなかった歴史を知ることが出来て嬉しかった。

▶ 子ども達の声

町並保存部会 活動報告

町並保存部会は、これからの高山の町並保存に関わる勉強会を行いました。市の職員さんをお招きし、6月には景観保存区域について、7月には高山の町家の歴史について、8月には「約束ごと」を独自に設けている保存会の会長さんをお招きし、パネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションの様子

この先勉強会をくり返す事により、知識が増え、共に、伝統的建造物や伝統文化などを守らねばという意識が高まっていくと感じています。この事を多くの市民の方に理解していただき、今後更に勉強会を重ねていく事で共通のルールの作成に向けて高山のまちづくり、まちを守るには何が必要かを皆で模索したいと思っています。

町並保存部会長 松之木氏

総会の「報告

去る7月5日、平成25年度高山市景観町並保存連合会の総会が開催されました。



議長をつとめる川上会長

- 時間 午後5～6時
- 場所 洲さき
- 出席者 62名
- 議案1号 平成24年度事業報告及び決算の承認について ↓ 異議なく承認
- 議案2号 平成25年度事業計画(案) 及び 予算(案)について ↓ 異議なく承認
- 25年度視察研修について ↓ 群馬県桐生市、栃木県足利市方面で実施
- その他意見
  - ・ 専門部会費を増やしても良いのではないかな?
  - ・ 自動販売機の色基準に関し検討が必要では?
  - ・ 保存区域の隣接地域についても、建造物などに派手な色などの使用を制限する要請が出来るかな? 検討が必要ではないかな?
- 来賓祝辞
  - ・ 西倉 高山市副市長
  - ・ 藤江 高山市議会副議長
  - ・ 堀 飛騨・高山観光コンベンション協会会長

お知らせ

高山市からののお知らせです

皆様がお住まいの重要伝統的建造物群保存地区や市街地景観保存区域では、建物の外観の工事（新築・改築・増築・修理・塗替えなど、外観に関する工事は全てが該当します）を行う場合は、事前に高山市への申請や届け出が必要です。

重要伝統的建造物群保存地区につきましては文化財課（電話：0577-35-3156）、市街地景観保存区域につきましては都市整備課（電話：0577-35-3159）までご相談下さい。

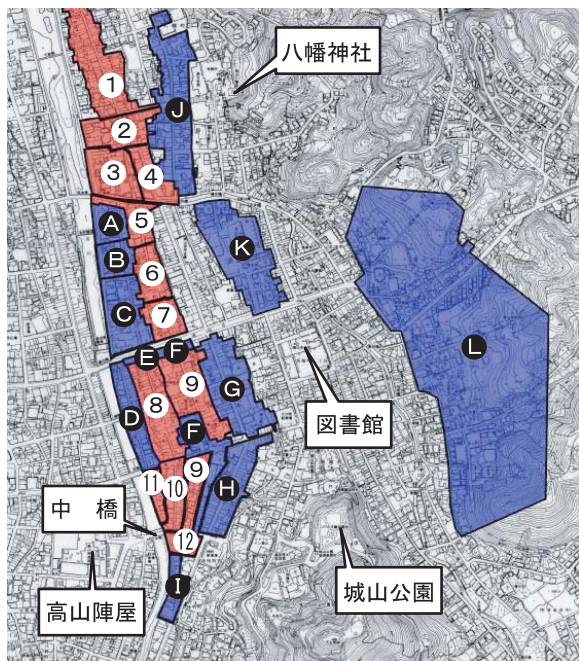
※重要伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物に指定されている建物については、内部の工事にも事前申請が必要です。

伝統的建造物の歴史的価値ある外観・構造上重要な部分は、高山市伝統的建造物群保存地区保存条例によって保護され、その周辺建築物などについても、市街地景観保存条例により出来る限り伝統的建造物と調和する修景（美しさを損なわないように風景を整備すること）をすることが求められています。

そのため、様々な規制や基準・課題があり、新築・増築・改築または移転にあたっては、住民の皆さんに特に協力を求めるものです。

# 高山市の伝建地区・景観保存区域の保存会 Vol.2

高山市景観町並保存連合会は、市街地景観保存区域（以下、景観保存区域）の12の景観保存会と、重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）の12の町並保存会で組織されています。ここでは各号、保存会をご紹介します。



かみさんのまち

保存会名：上三之町町並保存会（地図8 と 地図E）  
 保存会長：大野 二郎(おおの じろう)さん  
 会員軒数：62軒（伝建地区に53軒・景観保存区域に9軒）  
 該当町内：上三之町 さんまち通りより北  
 主な目印：三町重要伝統的建造物群保存地区・龍神台屋台蔵・瓢箪組秋葉社・三安組秋葉社  
 主な行事：例年の防火訓練・3年毎のグループ自動火災報知設備の点検・店舗等現状変更工事の理事会審査  
 会の実績：山王祭（春の高山祭）・秋葉神社の例祭（各組）・各家軒下で朝顔栽培（6～9月）・七夕飾り（8月）・防災訓練（11月）・町のライトアップ（12月）

ひとこと：年間通して、恵比須台組町並保存会様と同様、観光客の往来が多い地区です。毎朝各家の前と道路の清掃や水撒きを行い、植木や花で飾っています。皆で看板や店構え等に気を遣い、町並保全に取り組むことを期待しています。

えびすたいぐみ

保存会名：恵比須台組町並保存会（地図10）  
 保存会長：牧野 敏夫(まきの としお)さん  
 会員軒数：24軒（全て伝建地区内）  
 該当町内：上三之町 さんまち通りより南  
 主な目印：古い町並み・造り酒屋  
 主な行事：季節の花の配布（年4～5回）  
 会の実績：毎年10月末の防災訓練・火災報知機点検  
 ひとこと：当保存会は、高山で最初の保存会です。美しい町並みの中を、大きな恵比須台（屋台）が曳き回される様子は、とても情緒があり私達の誇りです。これからも、この町並みを会員皆で守っていこうと思います。



かみにのまち

保存会名：上二之町町並保存会（地図9 と 地図F）  
 保存会長：平田 省三(ひらた しょうぞう)さん  
 会員軒数：51軒（伝建地区に24軒・景観保存区域に27軒）  
 該当町内：上二之町全戸  
 主な目印：鳳凰台・五台山・石橋台 各屋台の屋台蔵  
 主な行事：山王祭（春の高山祭）屋台の曳行・秋葉神社の例祭（1・5・9月）  
 会の実績：高山市文化財課のご協力により、全戸消火器の設置済み  
 引き続き火災報知機の全戸普及に取り組んでいる  
 ひとこと：当保存会は、石橋台・南車台・五台山・鳳凰台の4つの屋台組で構成されています。現在に継承されてきた伝統が上二之町の誇りであり心の支えです。商店が少ないので観光にはいまひとつ面白味が足りないかも知れませんが、伝統と住み易さをアピールしたいと思っています。

